

解答

問一 しつげに厳しい母から、突然、お屋敷が並ぶ紀尾井町に住む大叔母の所へ一人でお使いに行き、贈り物を届ける役目を言いつけられた。そのうえ、挨拶までしなければならなくなり、心に大きな重荷を感じ、緊張して食欲を失ってしまったから。

問二 自分から頼んでお使いに行くわけではないし、お口上を教えてもらいたいわけでもないのに、大叔母へのお口上を母にテストされ、しかも厳しくしかられるばかりだった。そうした理不尽に対する不満を口にしたり、泣き出したりしてしまうこと。

問三 (1)〔頂く〕もらう 〔お目にかける〕見せる 〔おみえになる〕来る
 〔伺う〕聞く 〔召し上げる〕食べる

(2)〔頂く〕イ 〔お目にかける〕イ 〔おみえになる〕ア 〔伺う〕イ 〔召し上げる〕ア

問四 何とか覚えてきたお口上を言ったのだが、届けた平貝の料理法という予想外の質問をされた。それには何とか適当に答えてごまかしたが、これ以上身の縮むような思いをしてヘマをすることを心配し、早く退散した方が無難だとあせる気持ち。

問五 娘がお使いの役目を無事に果たしたことで、わざわざ材料屋に頼んできれいに取り合わせた平貝の新鮮さを、叔母が十分に評価してことのほか気に入ってくれたことに満足しているから。

問六 はじめは玉子の思いつきで猫を飼いたいと申し出ていると思って、真剣に取り合わず反対した。その後、自分にとって大切な存在であるお延ちゃんが、何とか玉子が猫を飼えるようにと気をまわしたことを知り、その厚意を無視するわけにはいかず、自分が観念して認めるしかないと思ったから。

問七 濟〔んだら〕 従〔って〕 〔お〕てぎわ 省〔ける〕 〔お〕情〔け〕 構造